淑忠和漢集

2155

へ4
2155

特
4 利へ門
號 2185
卷

子孫永保
雲煙家藏書記

藤野潔氏遺愛之記
明治四十一年四月十四日
藤野漸氏寄贈

沙玉和詩集

貞成親王ゆすみ例うの恋歌

十年九月九日貞成親王ゆすみ

三首の中

菊常雨

白くくくの白乃くの露

とくとくの白乃くの露

暖鹿

明るこのかたれもの月をやしろ
ゐまに鹿の声をきくなり

炎絶意

閑をあさこそ山をもとめ
ゐうまこてのゆとなりをり久

應永十一年五月廿日落髮後

この外人さわし三首の中

山家當

當のなくねのみやしなる人
人をとさやの人まの山さと

炎之意

炎つもりと命をけてゐるそ
うさにる人ゐる世をとはさん

草菴雨

たもしわる草の戸の雨ト
なをぬまこそふるうしうの

同年八月三十夜に東にてあれの
北斗

衛星月

山の端のかすかなるとはるる月影
月となくれのうへに出ぬる

園上月

星のつやはいとゝあれのよ
秋ちる月の新しきかな

宇治志

あれのうへにいでしかの
ちゝのみつ月をみるかな

月細眉

中ゝ天をゝ山ゝのおのへ
かゝゝとゝりていでる月哉

張泡屋

行ゝ舟ゝ形を写ゝ海の

うゑおすすめとてもかけてます

同十三年よりうゑまつ三首

月

あきのやまいとのはつけて

やまとかりゝ来るとこゑ多

五月

ちらすなく来たりもせぬよね

月夜みすゝと祇しの山つて

新月

月をたゝのふなるまてうん

うゑ世の秋のゆゝしさかりて

同十月十日人麿記紙よりさ

まつり文

落葉

拾ひてそめしあかのすゝ

ゆゝ葉うゑ人ふるまあり

冬月

秋さらぬ色に人うつる
板屋の雨の音ぞ冬月

名所恋

恋ゆえの山の月
今はかりとぞ思うらん

寛永十二年七月七日会題

三首

七夕月

知るらんの書よりはの月
うらやましうらやましうらやましう

七夕歌

七夕とかりやうつるや
書ぬるまゝ床のうらん

七夕恋

天の川流て今ぞ風ぬる

[illegible]

同年九月十三夜三首会

月前霧

菊の白露の色ぞうつりける
ふかぬ秋とは思へども

月前橋

秋の月かけこそ[illegible]

[illegible]

寄月待恋

[illegible]

元亨元年八月十五夜

[illegible]

[illegible]

月前[illegible]

言葉[illegible]

しにそめ俤

夏月

月やうちかすみ乃ちゝ水しらゝかの
わたてゝわかるゝ夏の夜

夏山

ふかうさゝ山ゝ松をとつこうて
涼しくゝ乃ちと雲乃ちとうて

高原

いはまそゝ山ゝ水のゝ流
んの岩乃れわたし花へき

高雲

ふの山ゝ雲のうゝ
ふゝうゝいはゝわやみくん

新色

ふにうをとる世のくゝいとわ桜の
うゝうゝの色をゆつまこうゝふ

新舟

新潟より三里ばかりのいけすてら
ゆうらく世界みりんそうん
おなじ国二月上旬かうわて山
十番会合中より別荘冷泉中
納こ部屋中納こ会勝
員付御
会員

庭つくり古巣のもんてんなるものをを
移すうちにていはゆる苔
落花
作りかのうしものかたちて
わりなき赤い宮のしゝうん
夕立
鳴るものとぱつる黄いり新て
しゝまるゆる山そうまはく

萩露

けさの色もえならぬ萩の白露に
折るからく露のこぼれもしけり

嵐紅葉

ゆふこする嵐のましろ松のその
松のうみ遠く松のみしけり

郭公

卅百首入

今しばしさきしとていつ待を
霧のまくにのこるを明
まこのよのこゑ露のあさゆき

寄風恋

我せこをこぬ夜来ぬ松の風さへ
いたく吹くとさえ吹くとさらしば

寄衣恋

衣うらみせぬそやあふよ小夜衣
結ぶらむ床にくしてもぬる

羇旅

むすひける草も花の名あるさく
月やかしき世人の行すゑの
左兵冷泉中納言
右兵飛鳥井中納言合
同年十月六日人丸影供よめ
る歌五首
桜
ひのもとにみえぬる月の影ならで
わかさくらの色そえきぬ
款冬
なれのミそ頼みてうつる款冬
みよしのの山のやとのゆふされ
月
わくれは（てん）引来もあふ光はと
ふ嵐やちかく照る月
雪

[illegible]

和歌

[illegible]

[illegible]

寛永十四年三月三日ゟ

三月

三月三日

[illegible]

[illegible]

水上流ル

大内川いつもの流ゟ乃

[illegible]

行幸延年

毎こもり行の[illegible]

[illegible]

同年九月十三夜に東に出たれば
月の光

秋の夜のうつくしきかなこの月を
なをなをしきまつ月をいつくしぶ

四象月

ちとせ経て秋の田の面に雁なきて
月もすみぬる秋の山かな

宇月雨

沖の石とりあはせたる山のいとみやび
月いとうつくしうこそ

同年十月廿日人々歌仕まつる

時雨

あと絶の森は時雨の池の水
ちりまがひたる人とぞ見の四方よりぞ

思出

秋のゆくこゝろをとめんとすれ
ども東の月をやりひきかへて

山家月

松ふかき野辺の山のあなたにて
むしのこゑのみぞ月をまつ

寛永十六年八月十五夜高野
にて人々歌合仕候ヘとの事
仰付られ候ヘ共

秋月

ふるさとの月のかげをまつ
ほどもいとゝ秋のこゝろん

秋雨

地ぬれ人絶て雨のやうとうん
なるかいなかの人てあるに月の如く

秋月

あくるまをまちにやうとそて

秋夜

露ちりて月の一ぱいうちなびく
小萩が末にすだくむしの声

秋鹿

夕されば田のもの面にうつる雁の
こゑ聞くたびに秋の山べと

秋雁

雲ぬけて月のかたぶくかたぶくと
田の面に月よりうつる雁なきなり

秋虫

秋ぎりの立ちこめたる野のかたの
草むらにすだくむしのこゑ

秋雨

露しげき小萩ぶすまの夕ぐれ
月のみ秋となりにけるかな

秋露

書こしの庵のうちとやわらん
初露うれのむさしのうち

秋水

ふるものやうらおほえて時雨ろ
世ほのかよすむうこうれ

秋夜

うの秋なをくゝりなれるもも

秋旅

ふるのうちこんの元の師代ろ

秋旅

秋やはてさとはまし第八京
家のうしねしゆしこしおい

秋京

地ちゆりこんこの秋八月みも
さりねいこむうり海せよや

秋懐

[illegible]

世を秋ふるあけの月

秋雨

[illegible]秋のさびしさ

月は御幸やらうをそうん

同八月廿日庚申の夢よ

秋月

三田姫淀ゑ[illegible]

月のうつしも秋そいろふ

秋雲

[illegible]

小野のあさらの[illegible]

秋鹿

御田やうらの[illegible]

河[illegible]

秋水

秋ちなをひとやもしらんあの
海しさのみ山の井のもと

秋雨

むらあめのうつりかはるは
えんやらも秋のよの月

同九月十陽の節

菊初開

ゆかりとて風にうつる菊の花
にほひをそへて

きくのはいろもうつりやすらん

野菊

八月十五夜

ながめてもいとゞあはれを
人こそとはねとも山もと
田舎

海辺

なみせばかりひかるかいなを
月の海の月すまんと

同九月十三夜菊の会

晩

[illegible]

[illegible]

[illegible]

早春

民のとも宵清めつゝ山陰の
道わけ出の春の花を待て

春暁

山さくらかゝるしらぬ横雲の
[illegible]

見花

山さくらあるかのうちるえ
[illegible]

曉鶯

月をかゝる明ほのぼの
あけぬ[illegible]

久主

とゝろ世の山ゝ雪の久しきゆふ
べしこの蓮いかゝ見すらむ

萩屋

小萩原ふゆゝ秋風ふけ
れとも人しもの人乃露

河月

黄泉川いく世の月ゝ流ゝて
ひろゝをとりす桂を拾く

亜紀葉

なをとりに世の積や河瀬久し
流てゆくさゝなみ紅葉こゝ

雪宿

かつゝ〻道ゝ雪ゝ道ゝ雪
とり〻〻山ゝ月と消ゝ

岡中雪

ゝゝ人ゝあれとゝ雪ゝ

遠ゝ門人吾のみをはの

寄悔恋

いとしみてるるの屋と隠れ

ふるさとゝゝよ思ひとつ人

寄花恋

紅ゝのもんもせそて折花

わすれをいうゝゝん

晩春

義代の山吹とのみて

さのゝみとゝあるを思ひ

祈祝

おれをい祈ゝんとやいるつ

ゝをおもしるすゝのれ

日十八日一日三月甲申庚

ゝゝゝ海ゝ

て高ゝかるつくして常光院

元

[illegible]

[illegible]

世の人のいとなみにわて
いとしたまやうぬえ

春月

[illegible]月
[illegible]

清花

[illegible]

人[illegible]

柳葵

人[illegible]
[illegible]

杜鵑

[illegible]

千樹まつ[illegible]

早秋月

[illegible]

秋田

[illegible]

社頭月

[illegible]

[illegible]

夜雨

[illegible]

[illegible]

宇野氏

[illegible]

寄家恋

恋衣ぬれて袖にくちぬるなこそ惜
しけれ袖ばかりの涙ならねど

寄濃恋

濃とてやれぬ涙のうらみあるか
袖のうらにぞ袖のうらとよ

菖蒲鶴

科の袖やあるこの濃の

すまぬ事といふ人とな

寄日祝

君代にあはんとぞ思ふ

たちんうらしいはさしうそ

[illegible]へはあらの

[illegible]に

[illegible]

わうさす袖よ白ひをうそ

わすれんのこしうとみやる

初冬

秋ぞ月四をうとくはれぬ

うをはさしるなをはくなる

高恋

うきわすれてあるみ高恋

人のうらはのこけるん

寛永十七年三月廿三日

てらの山ゆ到之次泉中

初春

あらみより春のあらふ世の色い

ひもうすくてうらくとはなく

海辺霞

春のうらはもてうらはもつ

霞ふとしてはもとらのうらなき

雪中梅

[illegible]

梅嘉月

[illegible]

春眺

[illegible]

秋夜月

[illegible]

山雪

[illegible]

花未飽

[illegible]

あそやこの代の春を別らん

花の雪

ふさとしてふるかとぞ思ふ花の雪

ひさかたの空のうちにいつ

三月尽

惜しみこそ人のうさをもなれ

なほうとましきめかるるかな

同年七月七夕

月の光の中秋を会

春日

春ごとに霞をつくる春日山

まがひにいろも空よりぞ人る

秋鶴

秋いまさあさ海の山さろ雲

ふりはなれてこそやいろりん

春夕

[illegible]

[illegible]

[illegible]山

[illegible]

[illegible]

夏浦

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

わすれぬるあはれふかくしら
同年八月十五夜よしみやこ
初秋月
露ふかくしきしまの道のあはれ
月のうつるのみやこ
澤辺月
ふるさと月わすれぬ
ふるさとの昔しのばしなれ
暮秋暁月
世月をやどすわすれ
秋をしらせしこえ
宇尚立
たのあはれ
ふるのよすてし人
宇草立
うつろへの野陽

[illegible]

寛永

[illegible]

[illegible]

寛永十八年四月日貞成親王

[illegible]

[illegible]

[illegible]

曉梅

[illegible]

月[illegible]

深夜の雪

小夜ちどりの[illegible]

[illegible]

山家

[illegible]

住へしわとの庭乃松か枝
月影の御ことよりみえぬ
新六題
ときりやう忍しやまみ部に
こ月しつかしあらし明乃うら
寄船恋
まれなるみかれしまくまあすてかね
これならふさくつい花くしな
羇中衣
三根あらし露ハさらりしら衣
かれしえたの月しやられく
れなりし年七夕ほとよ見えろ
七夕衣
入法示
天乃川雲もれつつそてうあつうさの
おろをとまりしろしてさらん
別恋

[illegible]

[illegible]

宗遍新

[illegible]

[illegible]

同年八月十五夜

月前旁

[illegible]

月をいとゝ秋のゆふべ

同月

月うせのゝすゝの行末

[illegible]

月前霧

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

風雲秋使

[illegible]

同[illegible]

歌頭立

[illegible]

身のしるれあいあるうまてしら

宰相中将

今[illegible]れなる東[illegible]月

うら[illegible]

同年三月[illegible]

前常盤

[illegible]

[illegible]

宰相中将

[illegible]

[illegible]

寄山恋

あふ夜の山さへいつはる恋路にて
うきをかさねし関路なるらん

同年十月六日人丸法楽に

落葉深

霜のみか木の葉ふかくも通ひちの
あとしはるかに尋る色の山さと

名所冬月

月代のはさ梢の雪にしら浪の
こほまころへ人りこ有明月を

名立恋

夢うたにあふ夜も見えていかなる
里とりつゝその里の名そうし

寛永十九年九月重陽の会に

籬菊知附

かりそめにうつしての籬の中にも

菊はくふしや旅てきこらん

思不逢恋

ふミみれぬ乃ふの山乃かよひちは

ゆうふん乃ゆくを見んとるや

松契遐年

御ん山の一しめの松まさりにる

千代とい君よ秋や見らん

同年九月十三夜よまる

月前雁

お法楽
雲路やくわりの声まさきもんは

ふうりをすきの月やてらしらん

寄月逢恋

さ寝しもみの夕月も新枕

まれまし夜ゆしの乃りもとやせん

花洛月

お法楽
よくひさやもの都乃秋乃そら

[illegible]

六月旅宿

[illegible]

[illegible]

寛永十年九月十三夜

九月雪景

[illegible]

[illegible]

河月似氷

月やどる川水の流のとゝまりて

氷ぞ流るゝ浦よりやうん

六月雪

いとゝて世をいとはれぬ人ゆゑに

雪なる月ぞ涼しき

同年八月廿五日百首歌

[illegible]

春

夏

つるとくめる秋にあらし興宮
小原よりかへりて月見る夜
こゝろの久月
八日さと山の本陰海しさい
この久月や秋やちかくなる
秋
すゝまこしひしり
新潟あまてすゝまこゝかの隠
行のゆくゝよりて月をいさゝか
いはをされあをそ
ゆてこゝろい一乗い天のそ
いそをれあをそく星今八ゝ
朝寒こゝろわ
山ゝけしあゝゝこゝゝゝ
こゝ映りゝゝ義八ゝ
文行ゆゝん

[illegible]
さそれ[illegible]いろつるぬん

冬

小わらの[illegible]

[illegible]

小わらみ中[illegible]

朝[illegible]

いろみ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

なまいすれを
行くゑなまをいすれを人の
行あいねいねに月をひかる
行をこそうし
五明いかをこそ行
行をこそうし行ねうしも
雜
雲の流れ

身をうねね遠の流をゆく
雲の流れをそうねうり
ふりけるか
わるしかの人をそ
流れるにうをかも
雜のうをうも
つをこそうしをを中い
雜のうをうよ行やをつる

[illegible]

[illegible]

同年十月廿六日人賣申候

冬雷

[illegible]

[illegible]

冬水

[illegible]

[illegible]

冬雪

[illegible]

[illegible]

冬霜

[illegible]

[illegible]

冬部

[illegible]

世の人なること[illegible]

四条人 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

夕顔

[illegible]

[illegible]

[illegible]

見る

[illegible]

[illegible]

同年十一月廿日[illegible]

[illegible]十首

天象

[illegible]

[illegible]

地蔵

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

わらはやまひのこと

雜也

源ゆくすゑをとはんとみても

ふるさとしらぬ人のなかんん

居所

山ゆくすゑをとはんとみてもとい

うらもせぬ人をとはねのわらぬ

釋教

いかなりてこの一期のゆくすゑのひのくれ

やうてさとりをひらくらん

神祇

神靈濯のあられをうるまぬ代い

神ゆ思ひもせてしらしらしをふ

文永九年一年潟年の今宮濯

菖蒲

（全ホ）あやめくのるさに月の白波い

[illegible]

梅雨

[illegible]ね梅の[illegible]

[illegible]て[illegible]五月雨の[illegible]

山雨

[illegible]にわ[illegible]の

[illegible]

日[illegible]七夕[illegible]

七夕雨

[illegible]の[illegible]河[illegible]雨や

[illegible]

七夕雨

七夕の[illegible]

[illegible]

七夕雨

月の入[illegible]て七夕の

神須花をかたらひて月
七夕
花をつてこの夕花を乞ふ鶴
月のあゆみ東や西やとこそ
同年閏七月廿七日歌合衆
法百首和千代科合和
をにまこそ
春月

同年九月十三夜にちなる
月

月よいとやさしくつゆ二夜にて
うるおくまれるをなげくなん

月おもし

うゝしのもとゝみれば来ちる
やうれ来れて神の月かな

月おもし

ゆゝしかれ御年して弥もいとり
こゝいんのすゝんより月

同年十月八日乳母
春夫墓

深草こゝの名てまたの日に
うゝとめ阿弥人やまの下前

秋植地

世月やもゝちるうゝれて

紅葉はことまろ秋のいろゝ

冬部物

同

雪のふるさゝの花のうら紅

梅ゝうゝやうくさうん

恋部物

かけなるや梅ゝうゝ色

ゆくてもとゝ山ゝうゝ秋り

同

霜月十六日百首人ゝ

まもるうゝ四ゝ

朝義家

月のあるかけのゝ見ゝうゝぬゝ

月ゝうゝこゝのゝこゝうゝ

京兼澄

聖人の文ゝ見れるゝ打ゝ

かのゝにのゝこゝ秋ゝ角乳

被恋

[illegible]

山鉾行

[illegible]

[illegible]

寛永廿二年三月吉日十三の

[illegible]

善長寺

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

善長寺

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

家を門あるとて今やうなるものを
ちらしてとをいはせてみん

寄鶯花

をくれゐてちりすぎにしはるの日の
山ぢかしうぐいすの和歌

同年二月廿日南井梅美花
よんでたまはせし懐紙な

如花てはらりはる

庭梅盛

庭をはらはらはてて久しうん
ひらきさうなるこの梅のえ

梅薫風

梅ちりをちりうん梅ちり
梅ちりをちりうん梅ちり
梅ちりをちりうん梅ちり

岸道花

岸道花

[illegible]

日本七月百首花三首のうち

早秋月

[illegible]

早秋月

[illegible]

[illegible]

暁述懐

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

萩雨

[illegible]

[illegible]

久鹿

[illegible]

久恋

[illegible]

同年九月十三夜[illegible]

月前雁

[illegible]

月前雲

[illegible]

月前虫

[illegible]

月前紅葉

[illegible]

[illegible]

同じ月花の通ひ所月庵

に仰光あるとて祖師を今

まことに西中陽春秋といふ

を

[illegible]

[illegible]

[illegible]

秋元

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

雅秋

都人よりて遠やまきさちは
伊山のあらし何かゝるより
たなし十月八雲氣作り
宗長東泉
としくて千里の松影の下に
うら見る人を形とのこゆる
文人
なとさりにくゝひとつるまく

かりひやまなる色いえしたり
應永卅三年十二月七日以下
頼よら説ろ
行者堂
當の風徳乃行りふるまで
忠ままそ我乃ならぬ茲ある
梅葉禪
まれりし人のまたわれて梅の露

[illegible]

[illegible]

同年三月[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

春恋

[illegible]

秋恋

[illegible]

[illegible]

旅泊

[illegible]

[illegible]

[illegible]

月前雨

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

いろせの月とうけてすしん

月前夏

やまもとかすみ夏しとそ平安

と東わかつさ月のけそ

はなれし月をよ

暮秋雨

月や未夏のこ秋さけそりし

わいまをとかこ夏ことと

暮秋獄

さし御のおりな夏よ世の夏の

別まこの秋を夏こいりわて

暮秋狂言

里人のかりて秋こ行や

ふしこの世をとり夏こて

四十月廿日人雲法師

山和尚

衆生はしくまちやすくん幽きよの
ともし火となりてみちをてらすや
衆生
いかなる有情なりとも此衆生をすくひて
うきよは人をもひあさくこの志
形意
むかしもおほい衆の志あれしやうなれ
あふさきをかとかくまし

大通院御前のはうの御法
承けて名残りして給ひて
同君月六日の御事給ひて
いとあはれとぞ 同十四年
二月より蓮光院御事給
まてその年ハうるめさる
にあはれとて名代うら給ひ
此事をはじめしなし

寛永十八年十二月晦日庚申

八日こゝ

名朝

わとゆきさ君乃わ[illegible]

人のこゝ乃ゆ[illegible]

名世

名[illegible]れの世人人乃[illegible]

小[illegible]

名源

世[illegible]

[illegible]

名思

名乃日も地[illegible]

[illegible]

日十九年二月[illegible]

の[illegible]

見花

しらくもとみえしよそめの花なれは
まちつけてけふはたつねきて
咲花を

よしの山たか人しらぬ花ならし
ちるもをしまぬ八重の山さくら
日本一年十三月毎の比まてよ

春天象

うきしほのとほしもかくも山のはの
やまもかはなみの立つゝ

春池緑

あら小田の人もいかしも河水を
苗代水にせきもいれみえつゝや

春植物

山さくらにしきのはなのくれなゐし
いつもともの花さへちりける

長歌

いたづらなのしら菊のうつろひて
あとなきものとなりにしかねらるれ
日本の九月をのみよ
九月を指
指のうつくしきもみちしり
はをもつるのこせこうつの花
九月をへ人事

秋の月人のこころをわたしそめ
河の水の東のわかれもとれば
九月を交歌
秋と云ふ名ばかりあるやみなび
長の月の名をもとにして
小人の後はんとして
年號の沒年を道
かな

應永二十四年正月二日午
時日蝕[illegible]
[illegible]
いとうろうなりけれ
おりしも二月廿日藤文院
乃御事なりて[illegible]代り
[illegible]おりの[illegible]た
[illegible]ぬ[illegible]

同廿四年八月十五夜に一万
[illegible]
[illegible]
[illegible]
四十[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

應永二十五年正月十七日常の
ことふり侍し陽明房にて始る
とてさらに月に宮殿へつくれる
り侍

暮春とて花まつにさとらん年の始
ふりこし積もる年ことに人へとし始
命婦によみし人始
初春

ちよせん君か代のはしめなるらん
日かけのとけくさすみえはしめ

子日

ちよふへきまつをしもひく人ぞ松
おこしあらは世のはしめなるらむ

祝言

いくひさしまさしく月のこのもと
きくえみ御代のはしめにあひつく

同年二月廿日洋書ヨリ

初春霞

春ゝ霞の色ゝ

くもるとも

庭梅盛

ゆゝしくもあるかな

春ゝ霞の色ゝ

宇治拾遺

然ハ人ハ

ゆゝしくもあるかな

世ちとせの

同年の春報恩寺ハ

てゝ

日ゝ

今ゝ千年の

ゆゝしくもあるかな

ゆゝしくもあるかな

古今巻ゝ二條人物ゝ

[illegible]の是ゆゑ
[illegible]
[illegible]
[illegible]年三月廿五日
[illegible]春天象
[illegible]月[illegible]
[illegible]
[illegible]地儀
[illegible]代[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]春植物
[illegible]
[illegible]
[illegible]春動物
[illegible]
[illegible]
[illegible]春雜物

[illegible]

同年七夕会

七夕月

[illegible]

七夕

[illegible]

[illegible]

[illegible]

祈祈恋

[illegible]

[illegible]

寄月祝

[illegible]

[illegible]

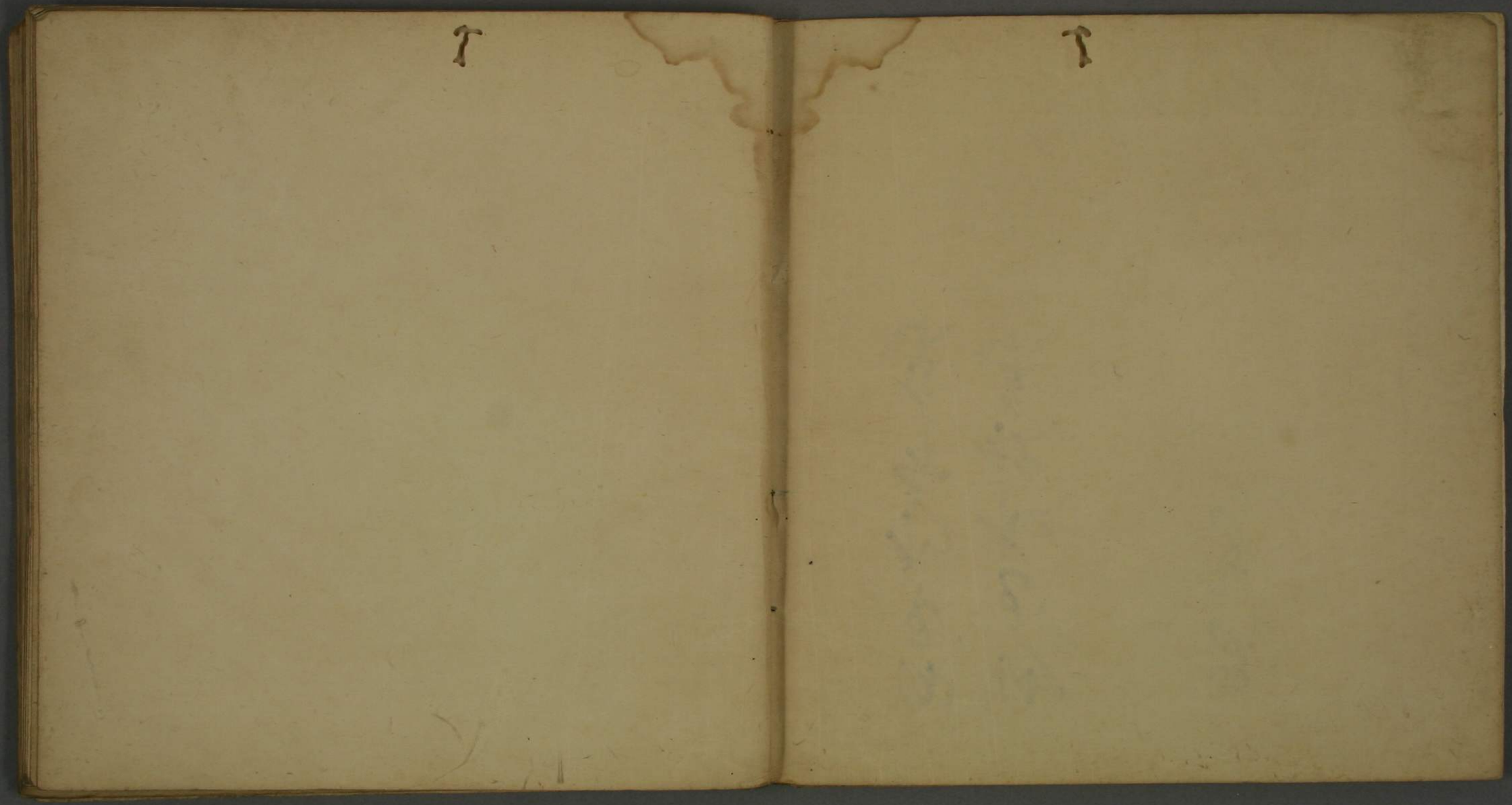
[illegible]

[illegible]

金子

四のとのさしめたとうけ
ばこよりあとをみるとうこ
ゆ

1



四之

洞玄和歌集

洞玄和歌集

2